

K 都公中事 Kaih O

編 集 発 行
平成 19 年 11 月 9 日 第 370 号
東京都公立中学校事務職員会
代 表 新井一正(板橋区立志村第一中)
編 集 八木最一(八王子市立第一中)
連絡先 〒192-0032 八王子市石川町 957-1
Tel 042-642-1894
大川(葛飾) 吉野(清瀬) 三浦(足立)
高橋(江戸川)

第 39 回全国公立小中学校事務研究大会 (愛知大会) 報告

会場となったのは名古屋国際会議場で、第 6 次研究中期計画大会テーマ「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」に基づき、年次別課題『ネットワーク社会における学校経営と学校事務』について 7 月 25 日～27 日までの 3 日間で開催されました。

全国よりの参加者 3,265 名(うち東京都は 87 名) ひとつの建物の中、様々な熱き研究発表等が繰り広げられました。

大会開始に先立ち、会長より九州の集中豪雨及び新潟県中越沖地震に対する哀悼の辞が述べられ、併せて大会中の義援金の募集が呼びかけられました。

実際に理事が募金活動を会場内で呼びかけている光景が見られ、過去数年の大会では見られない光景であったと思います。

募金総額は最終的には 72 万円を超えました。(全事研ホームページ参照)

この大会は、今後の法的変化並びに、年齢構成に伴う人的変化をどのように克服し、今以上に学校運営に積極的に携わっていけばよいか。いままでの学校事務職員ではなく、『一歩進んで教育活動に携わっていく事務職員』を目指そうという考えを持って、参加をお願いしたいという主催者からの意思表示がありました。

今現在、私達の状況も同様です。この大会に参加・不参加を問わず、今後をどのようにするか見据えるため、この大会成果の資料を検討する必要があるかもしれません。

大会に先駆け、前日の 7 月 24 日(火)に定期総会及び功労者表彰が執り行われました。

議案等は原案通り承認され、功労者の表彰も無事終了しました。

なお、この総会で前年度の理事の任期が終了し、会長が千葉支部の廣田正子氏から兵庫支部の木村信哉氏に交代し、承認されました。

また、本支部から理事として参加されていた鈴木恒明氏が退任され、新規理事には東京小・中支部からの推薦者は 0 名という状況となっていました。

全事研は東京・埼玉・千葉・愛知・大阪を中心に立ち上げた組織で、その中でも東京は御三家と呼ばれるぐらい重要な地位にありました。その東京からの理事が 0 名では非常にゆゆしき事態と思われます。また、11 年後は 50 周年の記念大会が東京で開催されることが考えられます。(前回 30 周年記念大会は小学校が主体で運営)



(会場：名古屋国際会議場)

< 第1分科会参加報告 >

第1分科会は茨城支部の担当により、「教育活動を支える学校事務組織を目指して」というテーマで提案と討議が進められました。

午前中はこの研究に取り掛かるに至った理由及びこれから行っていかなければいけないと考えられることの提案がされました。

茨城県は現在でも、学校事務は独自採用で他の行政機関との人事交流がない。そして、事務職員の年齢構成の高齢化がすすみ、多くの定年退職者が近年に出る見込があるとのこと。そのため、多くの技術や知識の流失が懸念されている現状です。また、学校内を見ても運営会議や企画会議への参画がなく、ただ事務処理のみを行っている職員という地位に甘んじているのが現状とのこと。

県全体としては共同実施等の導入で、事務処理の面については力量不足の事務職員のサポート体制が整いつつありますが、現在すすんでいる「画一的学校運営から個々の特色ある学校運営」への変化にはそれだけでは対応できません。「事務職員一人一人の能力により、提供できる事務内容に格差ができる」、「共同実施でのサポート（研修・アドバイス等）が不十分になる」などの支障が考えられます。

教育目標の具現化に向け、事務職員個人ではなく教育部門を支える事務組織の整備。そして整備達成により、学校運営への当初企画段階からの参画。参画することにより、目標達成へのプロセスの分析（金銭面を含め）及び事務部門によるサポート体制の話し合い等が充実することです。また、教員等を含めた事務組織を作ることにより、事務職員が異動しても事務の体制が維持でき、事務内容の継続性が維持できるとのことです。

では事務組織を作る上に何が必要と考えられるのでしょうか。

茨城支部の提案では、「事務処理の改善」「予算委員会の開催」「教育支援の方策検討」

「情報管理」の4点を目的とした学校事務改善委員会を組織すればよいのではないかと。言うことです。会場からの色々な質問がでて、その回答のなかで実際にこの委員会を策定し、活動している学校は茨城支部でも1・2校、それもまだ1年～半年との回答とともに、現在茨城ではほとんどの学校で運営会議（企画会議）に事務が参加していない状態になっているとのことでした。このままでは、『学校事務職員の存在意義が失われてしまう』という危機感にとらわれ、今回の研究発表をし、自分たちの研究の方向性が間違っていないことの確認と、他支部の状況を把握して今後の発展に役立てていきたいとのことでした。



午後は、高知大会からどこかの分科会で必ずと言っていいほどがやられているグループ討議が行われ、8～12人でグループを組み各地区の現状の情報交換をし、それを発表していきました。情報の中で目立ったことは、各地区で方式はそれぞれ異なるが共同実施が行われていること、そして予算委員会がない学校が意外と多いこと、中には企画会議までないという意見もありました。

分科会全体としては、ただ単に事務的仕事を処理するのではなく、今後様々な変化にさらされる学校を積極的にサポートする、「学校運営に参画していく」事務職員になっていこうという方向性で、結論が導き出されました。



全国大会に参加して

足立支部 匿名

梅雨明け間近と言われ、なかなか開けなかった今年。いつもなら全国大会のこの時期は、とっくに明けていたのだが、今年は明けないまま全国大会を迎えた。

7月25日夕方、名古屋駅のホームに降り立つ。暑い。梅雨は明けたのかと思われるような暑さ。ホテルへは、ゆっくりと散歩しながら行く予定だったが、タクシーで行くことに決める。その晩は、一步も外に出ないままベッドにもぐりこんだ。

7月25日朝、暑い。大会は、2日目。分科会討議の日となっている。近くの地下鉄の駅から会場へと向かう。会場がでかい。会場名は、名古屋国際会議場。昨年の横浜大会も大きかったが、負けずに大きい。政令指定都市は、スケールを大きくしなければならない、と会場が言っているみたいだ。

急に参加が決まったので申し込みを行っていない。受付で並ばなくてはいけない、と思ったら、2日目とあって並ばずに済んだ。しかし、分科会は選べず、会場に空きのある本部研究分科会となる。今までは、興味のある分科会に申し込んでいたので本部の分科会は初めて。避けていたわけではないが、会報等で見かける「組織マネジメント」をどうしても理解できず、疑問のままであった。疑問を解消するのにいい機会、と自分に言い聞かせ会場へと向かう。広い。定員3,500名。空きがあるわけだ。

分科会のテーマは、「ネットワーク社会における学校経営と学校事務」、サブテーマは、「ネットワークを活かし内外をつなぎ広げる事務職員の役割」。サブテーマで概要が理解できるはずだが、私にはわからない。ますますいい機会と言い聞かす。壇上が暗くなりスクリーンにパソコン画面が映し出され、研究発表が始まる。ネットワークの概要から始まり、昨年実施されたアンケートの結果・分析、提案、事例の紹介へと移る。



11時、約束の時間。受付のときに主催者に各会場の写真を撮りたい、と無理なお願いをしたところ、快く受けていただき11時から一緒に回る約束をいただいた。各会場とも造りはもちろんだが、趣向も違い、また、熱気の違いが大いにあった。全国に目的・仕事内容を同じにした人が一同に介し、研究を進める。大切な場所にいれることがとてもうれしく感じた。本部研究分科会も午後は、シンポジウムに形を変え、参加者の熱い意見・事例、シンポジストの的確なアドバイスがあり、私の疑問も私なりに解け、実りある一日を過ごすことができた。

7月27日最終日。午前中、大会報告と記念講演が行われた。各分科会とも、熱い討議の後を感じさせる報告が続く。日本各地で目的を同じにした「学校事務」職員がいる。心強く感じ、また、明るい日差しが見えて気がする。

正午過ぎ、大会は無事に終了し、参加者は日本各地に戻っていく。

外に出ると梅雨明け宣言を待ち構えたように日差しが明るかった。

学校事務研究会に参加して

S・H(江東区立中学校)

今回は、世田谷区立用賀中学校にて講演会でした。内容は、「地域運営校についてー学校管理職から事務職員に期待すること」というタイトルで、用賀中学校の校長・副校長・主幹より講演をしていただきました。

地域運営学校が拡大されてきている中で、用賀中学校が今年度より地域運営学校に指定を受け、文部科学省のコミュニティー・スクール推進事業の該当校である学校の管理職からみた事務職員に期待することについてお話をさせていただきました。

最初にコミュニティー・スクールの仕組みについて、主幹の三浦先生より推進フォーラムの内容説明からしていただきました。コミュニティー・スクールとは、保護者や地域住民の代表で構成されている「学校運営委員会」が設置されている学校のことだそうです。

世田谷区では、学校運営委員会の設置が制度化されました。コミュニティー・スクールの発想は、アメリカ型チャータースクールが原点である。次の3点にチャータースクールの姿が考えられるとの事です。

1. 学校の管理運営の基本的な形を変える。民意を集約して学校運営を進める。
2. 地域に関かれ、地域に支えられる学校づくりとして、学校を核とした地域づくりへ地域のリソースを子どもたちのために掘り起こされた。
3. 草の根の民主主義として、人民の人民による、人民のための学校

コミュニティー・スクールは、地方分権と言える。

つぎにコミュニティー・スクールの指定状況をお話ししていただきました。

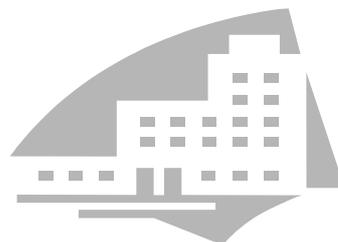
全国で213校(幼・小・中・高等学校を含めて)が指定されています。東京の1/2が世田谷区との事です。

用賀中学校の学校運営委員会は、10名で構成されています。5月の第3回運営委員会では、学校の予算が(ここでは、学校分割予算)事務職員より方針と説明があつて、承認されました。ここでの事務職員の役割は大きく、大変期待されているのだと感じました。

副校長先生からは、小中一貫教育研究校が今年度から委嘱されているということで、説明がありました。小学校2校との小中一貫・協働の教育を推進するという事で、様々な部会で教育活動を進めていますとの事でした。

校長先生は当日出張でしたが、後半部分の途中から参加していただき、区の政策・学校のことについて、お話しをいただきました。驚いたのは、平成19年度組織目標の中に、予算執行計画の策定、予算管理、契約、物品管理等の6項目があつたことです。

大変有意義な事務研究会に参加できて良かったです。用賀中学校の内野さんには、いろいろと準備していただき、有難うございました。



「研修会に参加して」

M・I (町田市立中学校)

都公中事が主催する研修会は、切り口が新鮮で楽しい内容が多く、研修テーマを考える方たちの頭の柔らかさにいつも感心しています。

今回は8月に昇給事務の研修を行ったばかりなのに、それから間もなくの今年度第二弾。「研修部員が少なくて・・・」とお嘆きの中、またこうした機会を設けてくださりありがたい・・・と開催文書を見ると、研修部員の勤務校でのお話ではないですか。正直言うと「人手不足で大変なんだなぁ」というのが第一印象でした。(失礼!)

今回の研修テーマである地域運営学校については、数年前に足立区の五反野小学校が全国初の地域運営学校となり、「校長日記」が新聞に連載されていたのを興味深く読んだりしたもの、私にとってはまだまだ「遠い国のお話し」で、大した知識もありませんでした。「ちょっと覗いてみよう」という軽い気持ちでの参加でした。

現在、地域運営学校の指定校は全国で200校

を超え、東京都でも地域差はあるものの確実に増えている上、小中一貫校などの従来には無かったタイプの学校も多くなり、同じ公立中学校なのに一歩外に出れば取り巻く環境の違いに驚くばかりです。ましてや地方分権が進み、その違いは幅広くなる一方で、日々の仕事をこなすのに精一杯の自分は焦りを感じることもしばしばです。

今回の研修では、地域運営学校の概要や事務職員の間わりを知ることができた上に、数多くの良い質問が出され、参加された方々の意識の高さを感じ、とても刺激を受けました。

講師の一人であった副校長先生のお話しは分かりやすく、もう何年も前からいらっしゃるのだろうと思っていたら今年着任されたばかりとの事で驚きました。学校の特色をよく理解し、アンテナを張り、新鮮な感性と幅広い知識を持つことは、私たち事務職員に期待されている大切なことではないかと、改めて感じた研修会でした。

地域運営学校における事務職員の役割とは？

K・U (八王子市立中学校)

ちょうど一年前、学校長から「来年度、地域運営学校の指定を受けようと思う」と話がありました。

全国的には平成16年に制度化され、八王子でも本年度より小学校1校中学校2校が指定され、そのうちの1校が私の勤務している八王子六中です。学校運営に地域・保護者など外部の方が加わると学校がどう違ってくるのか。それによって、事務職員の仕事の中身も変わっていくことになるのかなと考えていました。

4月から半年あまり、手探り状態だったので、学校事務研究会の通知を見て、ぜひ参加して他地区の状況を知りたいと思いました。

緩やかな水路の流れる用賀の町に迎えられ、用賀中学校の管理職及び主幹の先生から、基本的な概念と用賀中を中心とする小中3校の様子を説明

していただきました。

私たちの職務内容では、学校配分予算が運営協議会の承認事項となっているので、事務職員が学校運営協議会で説明・報告をすること、年度途中の予算執行状況等を含めると、年3回程度の学校運営協議会の出席が必要となり、協議会委員と直接意見交換をすることができることは共通のこととして理解しました。

八王子との違いとして、世田谷区では、小中一環教育推進校の指定も併せて受けるため、特色予算も含め、総合的に予算執行するとのことでした。最後に、校長先生からの「事務室から出て、たくさんの人とコミュニケーションをとってもらいたい。広い視野に立って、この地域にはどんな物が必要か、どんな人材がいるのか進言してもらいたい。」とのメッセージをお伝えします。

各委員会からのお知らせ

調査研究委員会

10月25日、豊島区立勤労福祉会館にて委員会を開催しました。「安全管理」を研究テーマとし、20年度の都公中事、21年度の関東ブロック分科会にて研究成果が発表できるよう、内容を吟味しております。これからも委員会活動にご協力をお願いいたします。

研修委員会

<事業報告>

本年度、10月までに2回の研修会を実施してきました。

1回目は、8月24日にオリンピック記念青少年センターで、東京都教育委員会の人事計画課の職員を講師に迎えて、実務研修会（昇給事務、初任給事務）を実施いたしました。

2回目は、9月21日に世田谷区立用賀中学校で、用賀中学校校長、副校長、主幹の三名を講師に迎えて、地域運営学校についての研修会を実施いたしました。両研修会とも、盛況のうちに終了させていただきました。

今後の研修会は、第3回目を11月19日にオリンピック記念青少年センターにおいて東京都教職員互助会 臨床心理士 卜部 裕介氏をお迎えし「カウンセリングについて」を、第4回目は三学期に「年金について（仮題）」として開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

広報委員会

会報第370号を発行しました。

今回は全事研大会と研修会の報告を掲載しました。

広報委員会は会報誌「Kaih0」や研究大会「研究集録」の編集・発行を行なっています。会報は会員の皆さんの原稿が命です。委員等から原稿の執筆依頼がありました際には、是非ご協力をお願いします。

また、広報委員としてお手伝いいただける方がいらっしゃいましたら

八王子市立第一中学校 八木までご連絡ください。

TEL 042-642-1894

委員募集のお知らせ

研修委員会・調査研究委員会・広報委員会では、各委員会活動をお手伝いしていただける委員を募集しています。

ぜひ、一人でも多くの皆さんに都公中事の委員会活動へ参加していただきたいと願っております。

ご協力いただける方はそれぞれの委員長までご連絡ください。

新 役 員 紹 介

「副会長として」

高橋 博（練馬区立開進第四中学校）

5月の総会で副会長に就任して、2ヶ月が経過しました。いろいろ不慣れな面が多々あると思いますが、よろしく願いいたします。

私が義務制に異動してきた平成10年度からみると、事務職員及び事務職員会の置かれている現在の状況は大変厳しい状態になっています。地区によっては事務職員会の出張がなかなか認められないことや、仕事が煩雑になって、研究・研修活動が満足に行えないなど厳しくなっています。

都公中事の活動も状況は同じようになっています。各支部の事務職員会の活動が停滞すれば、それによって成り立っている都公中事の活動も停滞してしまいます。

東京都の行政職の中で、事務職員会のような研究研修団体は貴重な存在だと思っています。東京都の職員の中で、自分の仕事の改善を考える人はたくさんいますが、自分の仕事の垣根を越えて、義務制学校全体の職務の研究をして、研修による研鑽をすることを目的に掲げているのが事務職員会であると思っています。

総務局からの行財政プログラムや事務職員のアウトソーシングなどの風評がでている厳しい状況ですが、事務職員の資質の向上と子どもたちの教育環境の整備のため、副会長として微力ながらがんばっていきます。

*本原稿は7月に寄稿していただきましたが、誌面の都合により今回掲載いたしました。御了承ください。



「書記になりました」

井上 真一（中野区立中野第二中学校）

このたび、都公中事の書記を担当することになりました、井上と申します。昨年度は都公中事中野支部代表として研究発表をさせていただき、会場に参加された方々には、この場をお借りして御礼申し上げます。

そういう縁もあって、後日役員の方から書記への要請依頼があり、相当悩みましたが、研究発表をするにあたり、蔭でいろいろとサポートしてもらった都公中事役員の皆様にはどこかで恩返しする必要があるのではないかと思ったのです。そんな次第で書記を引き受けることになりました。

書記という担当は初めてなので、諸先輩方のご指導を賜りながら、頑張っていきたいと思っております。



東京都公立学校事務職員研究協議会第43回(小・中・都立)研究大会のご案内

来る12月7日(金)、北とぴあ(北区王子)において東京都公立学校事務職員研究協議会第43回(小・中・都立)研究大会が開催されます。3つの研究協議会が予定されています。

中学校の担当する研究協議会は、午後1時から「学校の地震対策と事務職員にできること」というテーマで中央支部が行います。

申し込みは、昨年より事前申し込みとなっています。参加される方は、11月22日までに西早稲田中学校の本川副会長あてに申し込み願います。なお、詳細は開催通知をご覧ください。

